

道路交通

実現の好機 県に働きかけるべき 整備は必要 江戸川区とも連携する

(仮称)大洲橋

佐藤義一議員(民主・連合)
平成25年5月に自民党と公明党から国会に提出された「防災・減災等に資する国土強靱化基本法案」では、状況に応じた施策の総合的な策定・実施は地方公共団体の責務とされており(仮称)大洲橋の実現に向けては、フォローの風が吹いている。江戸川区と協力し、都と県に強く働きかけるべきである。市の見解を問う。

答 現在、本市と江戸川区間は2橋のみで、間隔も広く、交通アクセス、災害時の避難路及び水害の観点からも(仮称)大洲橋の整備は必要と考える。江戸川区は都に働きかけを行うとしており、本市も連携して、県に働きかけを行っていく。

ヘルスメイト(食生活改善推進員)の料理講習会



保健

生活習慣病の予防

高血圧や減塩対策 市の取り組みは 各種講座等 適塩の啓発進めている

浅野さち議員(公明党)
関心も高い。高血圧の予防に向けた食生活の改善や減塩対策について、市民への啓発等、市はどのような取り組みを行っているか。

答 市も、減塩は高血圧予

防にとって重要と認識しており、特定保健指導の際の食生活改善アドバイスや生活習慣改善講座、「適塩」を考えた献立を紹介する料理講習会等を実施している。今後も、適塩に関する情報発信を進める他、市ホームページに適塩食のレシピを掲載する等、市民への啓発活動に取り組んでいきたい。

子宮頸がんワクチン接種

国が積極的勧奨を中止 市の対応は 周知を図り 今後も国の動向を注視

越川雅史議員(無所属の会)
子宮頸がんワクチンの接種に副反応被害が度々指摘されたため、国は予防接種の積極的な勧奨を差し控えるが、市の考えはどうか。

答 国の勧奨を受け、市は積極的勧奨の中止や医療機関における説明実施等に対応しており、今後も広報等での周知や接種対象者への情報提供を行い、国の動向を注視し近隣市との連携を図っていく。検診受診率については、50%を目指し、個別通知の他、広報やポスターによる周知に取り組む。

外環への接続道路

市川鬼高線 歩道整備の早期実施を 地元の理解得て 早期事業化に努める

かつまた竜大議員(社民・市民)
東京外郭環状道路は、供用開始に向け急速に工事が進んでいる。これに接続する都市計画道路、特に3・

6・32号(市川鬼高線)の外環接続部分には学校等も多くあり、子どもの安全のためにも早期の歩道整備が必要と考える。施政方針でも事業化について言及があったが、市の考えはどうか。

答 市川鬼高線については、優先的に整備する路線として、平成25年度は修正設計を行い事業費等の再検討を実施する予定で、地元関係者の意見も聞き合意形成を図っていく。併せて、国、県等の関係機関との協議にも着手し、早期の事業化に向け努力していきたい。

通学路の安全対策

信篤・鬼高小通学路の安全対策を 警察とも協議 カラー舗装等に対応

佐藤幸則議員(自由民主党)
全国各地の通学路で痛ましい事故が発生している。通学路の安全対策、特に信篤小学校、鬼高小学校の通

学路における危険箇所について、横断歩道の設置や歩道の補修等に対応することが望まれる。市はどのような対策を行っているのか。

答 通学路の緊急点検結果では、1009の要対策箇所が認められ、うち70箇所について、カラー舗装や注意看板の設置等に対応した。各校通学路の危険箇所の対応としては、横断歩道の設置等について警察と協議を行う他、カラー舗装の整備や路面標示の復旧、注意看板等の設置等について、学校とも相談をしていく。

地域

マンションの自治会加入

管理組合 自治会とみなせないか 条件により同様の扱い可能か検討

石原よしのり議員(民主・連合)
市は、安心して住むことのできる街づくりをする中で、地域住民が参加しての協働を期待している。しか

し、市と住民とのつながり、マンションにおける加入率の低下により弱まっている。そこで、マンション管理組合を自治会とみなすことはできないか。

答 目的や構成員の違いから、市が管理組合をそのまま自治会と認めるのは難しいが、名称、規約、会計処理等で、疑義を招かぬよう工夫する等の一定の条件を満たしていれば自治会と同様に扱うことは可能ではないかと考える。千葉市の事例も参考に検討する。

LED型防犯灯

地域の設置要望数を整備する考えは 厳しい財政踏まえ対応協議していく

松永修巳議員(緑風会)
市は、安心安全な街づくりのため、費用の一部助成により自治会による防犯灯の設置を進め、東日本大震

災後はLED型防犯灯の設置を進めてきた。しかし、平成25年度の各自治会への設置割り当て数は、アンケートによる要望を下回っている。市は設置の現況と今後の整備をどう考えるか。

答 市はこれまで、LED型防犯灯の設置を推進し、過去2年間で1676灯のLED型防犯灯が設置された。アンケートでは1826灯、約1億2千万円の設置要望があったが、厳しい財政状況を踏まえたような対応が可能か、各自治会や関係部署と協議していく。

地域防災

地域の実情に合うより良い支援を 備品購入に補助 地域の意見聞き検討

荒木詩郎議員(みらい)
自治会等で構成される自主防災組織に対する支援として、市は防災資機材を貸与しているが、資機材の中

には30年前から変わっておらず、地域の特徴等にそぐわないものも多い。より良い支援をするための方策について市はどう考えるか。

答 市は、自主防災組織が地域の実情に合った資機材等を購入できるように、自治会等の世帯数に応じた補助限度額を定め、その範囲内で補助対象となる備品目の購入費用の一部を補助する支援制度の検討を行っている。また、今後は、意向調査を実施し、地域の意見を聞きながら、より良い支援策を検討していく。

公民館の駐輪場

乱雑な駐輪 整理できないか 用地の確保や駐輪エリア明示

かいづ 勉議員(自由民主党)
市は市民マナー条例の施行等、街の美化に取り組んでいるが、他方、公民館等の駐輪場には自転車乱雑

に置かれ、街の美観を損ねているところもある。そこで、特に市川と曾谷の両公民館における駐輪場の現状と今後の整備の考えを問う。

答 市川公民館裏手の警察寮跡地の活用について県警察本部と協議しており、公民館利用者の駐輪場としての利用を検討している。曾谷公民館については、駐輪台数が多いことや駐輪スペースが明示されていないことで乱雑な駐輪を招いており、今後、駐輪場としてのエリアを明示すること等の整備を検討していく。